

# 私の戦争体験記

大 月 佐喜代 さん

戦争体験記と言っても私はまだ9歳頃で、骨ずい炎にかかり、倉敷駅付近の赤木外科病院（西ビルと若者の宿あたり）に入院しておりました。2階の病室下の道から毎朝一定の時刻になると、勇ましい軍歌のような力強い若者が歌声高らかに行進して行きました。今にして思うと水島線(1)に乗って三菱重工業水島航空機製作所びしに行っていた事が（今朝の新聞で）わかりました。その当時入院しても、手術して悪い所を取りガーゼ交換(2)（リバノールと赤チン(3)）しかありません。戦後間もなく抗生物質(4)ができ、足は治りました。病院の小庭ではあちこちで七輪で自分の食事を作っていました。母は毎日、西中新田東中（今の役所）の辺りから歩いて、家の事を済まし来てくれました。家は農家だったので、忙しい頃は倉商(5)の生徒さんが4～5人手伝いに来てくれました。

病院の2階の部屋から見える所に人々が並んで、食料品を手に入れている光景も見ました（今のへん見歯科裏道）。戦後になって、病院のすぐ前の道（旧国道2号線）で闇市場(6)が立ち並びにぎやかでした。また、広島に原爆が投下された翌日には、どんなにして来られたのか、患者さんが何人か痛々しい形相で来られていました。前日は西の空は真赤だったのも見えました。

父は3人兄弟の長男で海軍から帰りましたが、弟は近衛兵(7)で東京から帰り、19年に比島（フィリピン諸島）作戦に岡山から出征し、死亡しました。従妹は百日で母に抱かれ駅まで連れて見送り、それが最後でした。伯母は「しづえ（老松）」の踏切で見送ったのが最後だったそうです。何と悲しい事でしょう。出征の折、日の丸の旗や海軍の旗のきから庭にひらめいたのを3回みたことになります。幼少の頃は、はしゃいで眺めていたと思います。悲しかった家族のことは、私にはまだわかりませんでした。残った祖父は2つ違いの弟をおぶってトラクターや牛を使っていました。残った人々は、苦勞の連続だったと思います。資料として祖父が大切にしていた「岡山県戦没者名簿（倉敷）」

を私が持って時々叔父を偲<sup>しの</sup>んでおります。

この様な戦争があって今があるのだと、時々思い出します。

- 
- 1 水島線...水島臨海鉄道のこと。
  - 2 リバノール...殺菌・消毒に用いる外用剤。皮膚を刺激しないので、外傷ややけどなどに用いる。
  - 3 赤チン...マーキュロクロム水溶液のこと。皮膚・粘膜及び創傷の消毒などに用いる。
  - 4 抗生物質...ペニシリンなど、カビ・放線菌などの微生物によってつくられ、他の微生物や細胞の発育または機能を阻害する物質。
  - 5 倉商...岡山県立倉敷商業高等学校のこと。
  - 6 闇市場...正規でない方法や価格における取引が行われる市場。
  - 7 近衛兵...大日本帝国陸軍の師団の一つ、「近衛師団」に配属された兵。